

NACE、2014年の大学卒業者の卒業後の動向を調査（6月5日）

米国大学・雇用者協会（National Association of Colleges and Employers : NACE）は、2014年の大学卒業者の卒業後の動向に関する調査結果をまとめた報告書「2014年大学卒業生の最初の進路（First Destinations for the College Class of 2014）」を発表した。本調査は、NACE加盟大学207校を2014年に卒業した約27万4,000人の卒業生のデータを使用し、取得学位、大学規模、大学の種類（公立・私立）、卒業後6カ月以内に選択した進路などを含む、複数の項目で分析を行ったものである。主な結果は以下の通り。

- 卒業生の54%がフルタイムで就職し、75%が何らかの進路を決定。
- 学士号取得者の80%以上が就職・進学などの卒業後の進路を決定。
- 学士号取得者の62%は雇用されているが、「標準的な就職」をしたのは58.4%のみで、残りは起業やインターンシップなど。
- 学士号取得者の16.4%と準学士号取得者の20.4%は学業を継続。

なお、本報告書は、

<<https://www.nacweb.org/uploadedFiles/Pages/surveys/first-destination/nace-first-destination-survey-final-report-05-2015.pdf>>

からダウンロード可能。

Inside Higher ED, Colleges and Graduates, Survey Says...

<https://www.insidehighered.com/news/2015/06/05/new-national-survey-aims-set-baseline-postgraduation-outcomes>